

人と意見

社会的問題

堀 慧 (岡山大学農学部長)

あけましておめでとうございます。

わが国では年と共に農業人口は減っていますが、農家戸数はあまり減ることなく、兼業農家として残っています。中国5県で専業農家の割合が最も高いのは岡山県ですが、それでも全農家数の25%に過ぎません。すなわち農作業という男性的労働が婦人に肩替りしている昨今でございます。そしてその結果、農村婦人の腎臓病、高血圧、急性腱鞘炎、流産などが激増したといわれています。また米の単作地帯をはじめ九州の南部、四国の太平洋側あるいは山陰では農家の世帯主や跡取りが農閑期に出稼ぎにでることは今では常識になっています。就職先の雇用条件や労働条件が整っていないため、出稼ぎにでたまま行方不明になるものがあまりにも多いので父親探し運動まで起っていて由々しい社会問題となっています。

とかくこれまで農業問題は都市と農村との所得格差という点で論ぜられてきましたが、いまでは農村問題それ自体の中に前記のような社会問題も含まれているといわねばなりません。政府もこれまで農業基本法、酪農振興法、畜産物価格安定法その他いろいろの法律を制定し、一昨年以來農業構造改善事業とも取り組んでいます。未だ迫力に乏しく、現下の農業問題を解決するには具体性がなさすぎるような気がします。佐藤首相は経済よりも人間尊重の論者だと承っています。農民の幸福のために、今年こそは政府および地方自治体は強力なる措置を講ずべきだと思います。

畜産に関連して考えさせられる問題に濃厚飼料対策と環境衛生の問題があります。

わが国の昨年度の配混合飼料の生産量は700万トン以上と推定されますが、その原料の7～8割は輸入品ではないかと思われまます。この量はわが国産米の約4割の量に相当することを思いますと、いかに多い量であるかが想像できます。外国品を使うには

それ相当の理由はあるわけですが、これでは外国での作柄の吉凶が直ちにわが国の畜産にひびいてくるわけです。今後濃厚飼料の使用量は益々多くなると思われますが、原料の外国依存一辺倒でつは外貨、船舶あるいは荷揚げのための港湾施設などの製肘を受け、この面からしてわが国の畜産が頭打ちになることも想像されます。粗飼料の生産については政府も力を入れ、世論も起きていますが、濃厚飼料の国内生産については残念ながらあまり耳にしません。世論を喚起したいと思います。

昨年公害の問題がとみにやかましくなってきました。家畜家禽の排泄物から発散する悪臭やウジ、蠅も一種の公害と思います。人里離れた処に養豚や養鶏をはじめたが、附近が住宅地になり、たちのきを迫られたという話はそう珍しいことではありません。家畜家禽の排泄物は申すに及ばず人糞人尿でさえ、これが肥料として土地に浄化される間は問題はありません。わたくしたちは、今ではお金を払って便所を汲み取ってもらっていますが、文献によりますと徳川時代には、江戸では尿尿の代金は家主の所得、京、大阪では尿は家主、尿は借家人の所得とすることに決められていたそうです。畜産が企業として独立する時は糞尿処理の問題は極めて大事なことになってきます。わが国でも一部の識者間では、この問題が真剣にとりあげられ、鶏糞処理については画期的な成果をあげているところもありますが、より多くの者が関心を持ってこの問題に対処して、畜産をスムーズに進めたいと願っています。